

NEC iStorageシリーズ iStorage NS150h

6

故障かな？と思ったときは

装置の運用および保守について説明します。

「日常の保守」(158ページ)

日常使う上で確認しなければならない点やファイルの管理、クリーニングの方法について説明します。

「障害時の対処」(161ページ)

故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因の確認方法やその対処方法について説明しています。

「ソフトウェアの再インストール」(177ページ)

システムの障害により、再インストールが必要となった場合にお読みください。

「移動と保管」(185ページ)

本体を移動・保管する際の手順や注意事項について説明します。

「ユーザーサポート」(187ページ)

本製品に関するさまざまなサービスについて説明します。サービスはNEC、およびNECが認定した保守サービス会社から提供されるものです。ぜひご利用ください。

日常の保守

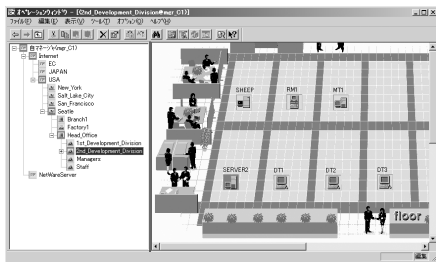
装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

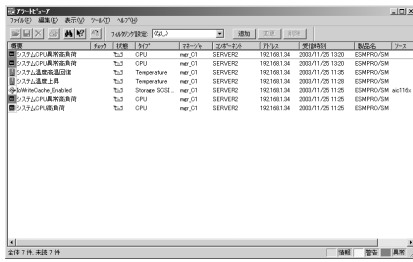
システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。

管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

ESMPROでチェックする画面



統合ビューア



アラートビューア













データビューア

ステータスランプの確認

本体の電源をONにした後およびシャットダウンをして本装置の電源をOFFにする前に、本体前面にあるランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については、1章の「各部の名称と機能」（9ページ）をご覧ください。万一、本装置の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

クリーニング

装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

 警告	
      	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分で分解・修理・改造はしない ● プラグを差し込んだまま取り扱わない ● リチウムバッテリーを取り外さない
 注意	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高温注意

本体のクリーニング

本体の外観の汚れは、柔らかい乾いた布で汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、本体背面のコネクタ、本体内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 本体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。
2. 本体の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。

光ディスクドライブのクリーニング

ディスクにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、ディスクのクリーニングを行います。

1. 本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. DVD-ROMドライブ前面のトレイジェクトボタンを押す。
トレーがDVD-ROMドライブから出てきます。
3. ディスクを軽く持ちながらトレーから取り出す。



ディスクの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

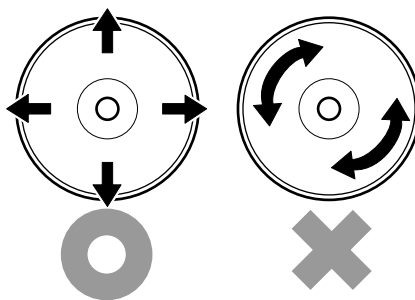


DVD-ROMドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. トレーを軽く押して、トレーをDVD-ROMドライブに戻す。
6. ディスクの信号面を乾いた柔らかい布でふく。



ディスクは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、専用のクリーナであることを確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



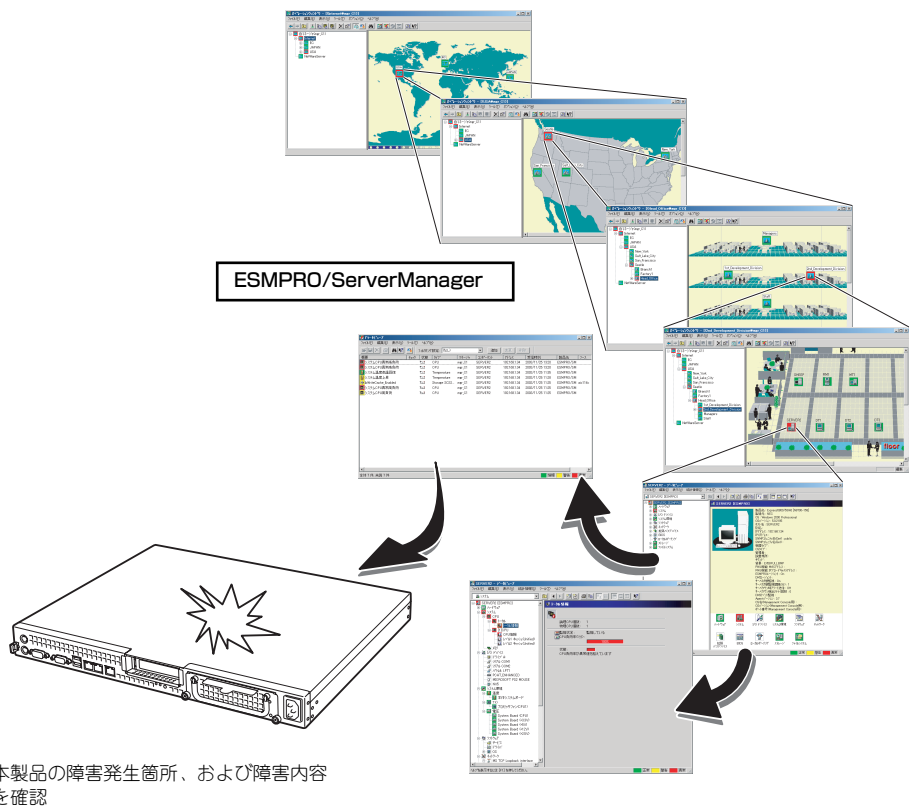
障害時の対処

「故障かな?」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。障害発生箇所や内容の確認ができれば、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

本体の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。また、エラーの内容によってはビープ音でエラーが起きたことを通知します。



POSTのエラーメッセージは本体にキーボードとディスプレイ装置を接続している場合に参照できます。

メモリの故障を示すメッセージ（例ではメモリ#1が故障した場合の表示）

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
:
CPU=Pentium 4 Processor XXX MHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING
0B60: DIMM #1 has been disabled.
:
Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。



保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音のパターンをメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。



POSTのエラーメッセージ一覧は本体のマザーボードに関する表示のみです。

画面に表示されるエラーメッセージ

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意 味	対処方法
0200 Failure Fixed Disk.	ハードディスクドライブエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0210 Stuck Key.	キーボード接続エラー。	キーボードを接続し直してください。
0211 Keyboard error	キーボードの異常。	キーボードを接続し直して再起動してください。それでも直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0213 Keyboard locked - Unlock key switch.	キーボードがロックされている。	キースイッチのロックを解除してください。ロックを解除しても直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0220 Monitor type does not match CMOS - Run SETUP.	モニタのタイプがCMOS と一致しない。	SETUP を起動してください。SETUP で直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0230 System RAM Failed at offset.	システムRAM エラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0231 Shadow Ram Failed at offset.	シャドウRAM エラー。	
0232 Extended RAM Failed at address line.	拡張RAM エラー。	
0250 System battery is dead - Replace and run SETUP.	システムのバッテリーがない。	保守サービス会社に連絡してバッテリーを交換してください。(交換後、SETUP を起動して設定し直してください。)
0251 System CMOS checksum bad - Default configuration used.	システムCMOS のチェックサムが正しくない。	デフォルト値が設定されました。SETUP を起動して、設定し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0252 Password checksum bad - Passwords cleared.	パスワードのチェックサムが正しくない。	パスワードがクリアされました。SETUP を起動して設定し直してください。
0260 System timer error.	システムタイマーエラー。	SETUP を起動して、時刻や日付を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
0270 Real time clock error.	リアルタイムクロックエラー。	
0271 Check date and time setting.	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りがある。	
02D0 System cache error - Cache disabled.	システムキャッシュエラー。	キャッシュを使用できません。保守サービス会社に連絡してください。
02D1 System Memory exceeds the CPU's caching limit.	メモリがCPU のキャッシュの限界を超えた。	保守サービス会社に連絡してください。
02F4 EISA CMOS not write able.	EISA CMOS に書き込めない。	
02F5 DMA Test Failed.	DMA テストエラー。	
02F6 Software NMI Failed.	ソフトウェアNMI エラー。	
02F7 Fail-safe Timer NMI Failed.	フェイルタイマのNMI エラー。	
0B22 Processors are installed out of order.	CPU の故障。	保守サービス会社に保守を依頼してCPU を交換してください。
0B28 Unsupported Processor detected on Processor 1.	CPU #1 ソケットにサポートしていないCPU が搭載されている。	保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B29 Unsupported Processor detected on Processor 2.	CPU #2 ソケットにサポートしていないCPU が搭載されている。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	対処方法
0B30	FAN 1 Alarm occurred	ファンの異常を検出した（数字はファン番号を示す）	ファンの故障またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B31	FAN 2 Alarm occurred		
0B32	FAN 3 Alarm occurred		
0B33	FAN 4 Alarm occurred		
0B34	FAN 5 Alarm occurred		
0B35	FAN 6 Alarm occurred		
0B36	FAN 7 Alarm occurred		
0B37	FAN 8 Alarm occurred		
0B38	FAN 9 Alarm occurred		
0B39	FAN 10 Alarm occurred		
0B3A	FAN 11 Alarm occurred		
0B3B	FAN 12 Alarm occurred		
0B3C	FAN 13 Alarm occurred		
0B3D	FAN 14 Alarm occurred		
0B3E	FAN 15 Alarm occurred		
0B42	Resource Conflict	リソースが競合しています。	保守サービス会社に連絡してください。
0B43	Warning: IRQ not configured	IRQ が設定されていません。	
0B45	System Configuration Data Write Error	システム設定値の読み込みができません。	
0B5F	Forced to use Processor with error	CPU エラーを検出した。	CPU でエラーを検出したため、強制的に起動しています。保守サービス会社に連絡してください。
0B60	DIMM group #1 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ #1 が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
0B61	DIMM group #2 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ #2 が縮退している。	
0B62	DIMM group #3 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ #3 が縮退している。	
0B63	DIMM group #4 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ #4 が縮退している。	
0B64	DIMM group #5 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ #5 が縮退している。	
0B65	DIMM group #6 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ #6 が縮退している。	
0B70	The error occurred during temperature sensor reading.	温度異常を検出する途中にエラーを検出した。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B71	System Temperature out of the range.	温度異常を検出した。	
0B74	The error occurred during voltage sensor reading.	電圧を検出中にエラーが起きた。	
0B75	System voltage out of the range.	システムの電圧に異常を検出した。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B80	BMC Memory Test Failed.	BMC デバイス(チップ)のエラー。	
0B81	BMC Firmware Code Area CRC check failed.		
0B82	BMC core Hardware failure.		
0B83	BMC 1BF or 0BF check failed.	BMC のアドレスへのアクセスに失敗した。	SETUP を起動して、「Server」メニューの「Event Log Configuration」で、「Clear All Error Logs」を選び、<Enter> キーを押してログを消去してください。
0B8A	BMC SEL area full.	システムイベントログを書き込める容量がない。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	対処方法
0B8B	BMC progress check timeout.	BMC チェックを一時中断した。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B8C	BMC command access failed.	BMC コマンドアクセスに失敗した。	
0B8D	Could not redirect the console - BMC Busy -	コンソールリダイレクトができない (BMC ビジー)。	
0B8E	Could not redirect the console - BMC Error -	コンソールリダイレクトができない (BMC エラー)。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B8F	Could not redirect the console - BMC Parameter Error -	コンソールリダイレクトができない (BMC パラメータエラー)。	
0B90	BMC Platform Information Area corrupted.	BMC デバイス (チップ) エラー。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B91	BMC update firmware corrupted.		
0B92	Internal Use Area of BMC FRU corrupted.	Chassis 情報を格納した SROM の故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B93	BMC SDR Repository empty.	BMC デバイス (チップ) エラー。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B94	IPMB signal lines do not respond.	SMC (Sattelite Management Controller) の故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B95	BMC FRU device failure.	Chassis 情報を格納した SROM の故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B96	BMC SDR Repository failure.	センサデータレコード情報を格納した SROM の故障。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B97	BMC SEL device failure.	BMC デバイス (チップ) の故障。	
0B98	BMC RAM test error.	BMC RAM のエラー。	
0B99	BMC Fatal hardware error.	BMC のエラー。	
0B9A	Management controller not responding.	BMC のエラー。	RMC のファームウェアをアップロードしてください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B9B	Private I2C bus not responding.	プライベート I2C バスより無応答。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B9C	BMC internal exception.	BMC のエラー。	
0B9D	BMC A/D timeout error.	BMC のエラー。	
0B9E	SDR repository corrupt.	BMC のエラーまたは SDR のデータの破損。	
0B9F	SEL corrupt.	BMC のエラーまたはシステムイベントログのデータの破損。	
0BB0	SMBIOS - SROM data read error.	SROM のデータリードエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0BB1	SMBIOS - SROM data checksum bad.	SROM のデータチェックサムエラー。	
8100	Memory Error detected in DIMM group #1.	メモリエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡して該当するグループの DIMM を交換してください。
8101	Memory Error detected in DIMM group #2.		
8102	Memory Error detected in DIMM group #3.		
8103	Memory Error detected in DIMM group #4.		

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	対処方法
8160	Mismatch Processor Speed detected on Processor 1.	CPU #1 の周波数が合っていない。	保守サービス会社に連絡してください。
8161	Mismatch Processor Speed detected on Processor 2.	CPU #2 の周波数が合っていない。	
	Expansion ROM not initialized - PCI Mass Storage Controller in slot xx	オプション ROM の展開領域が不足。	SCSI コントローラで、OS がインストールされているハードディスクドライブを接続しない場合はそのボードの ROM 展開を無効にしてください。 「システム BIOS のセットアップ (SETUP)」の「PCI Configuration サブメニュー」(127 ページ) を参照してください。
	H/W Configuration of BMC is corrupted. !!Update BMC F/W Configuration by configuration tool!! !!Refer to BMC configuration manual!!	RAS 機能の設定が行われていない。	保守サービス会社に連絡してください。

ビープ音によるエラー通知

POST中にエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。

たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、1回の組み合わせで鳴った（ビープコード: 1-3-1-1）ときはDRAMリフレッシュテストエラーが起きたことを示します。

次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意 味	対処方法
3-3-(繰り返し)	ROM チェックサムエラー	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-2-2-3	ROM チェックサムエラー	
1-3-1-1	DRAM リフレッシュテストエラー	DIMM の取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してDIMM またはマザーボードを交換してください。
1-3-1-3	キーボードコントローラテストエラー	キーボードを接続し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない メモリの容量チェック中のエラー	DIMM の取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してDIMM、またはマザーボードを交換してください。
1-3-4-1	DRAM アドレスエラー	
1-3-4-3	DRAM テスト Low Byte エラー	
1-4-1-1	DRAM テスト High Byte エラー	
1-5-1-1	CPU の起動エラー	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-5-2-1	CPU が搭載されていない	保守サービス会社に連絡してCPU またはマザーボードを交換してください。
1-5-4-4	電源異常	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
2-1-2-3	BIOS ROM コピーライトテストエラー	
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	
1-2	オプションROM 初期化エラー	SETUP の設定を確認してください。 また、増設したPCI ボードのオプションROM の展開が表示されない場合は、PCI ボードの取り付け状態を確認してください。 それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡して、増設したPCI ボード、またはマザーボードを交換してください。

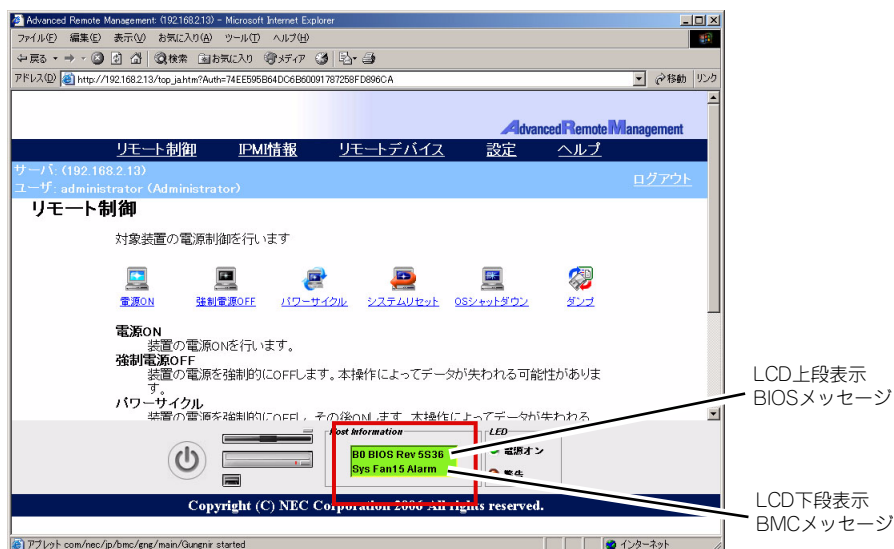


ビープコード「1-5-4-2」の鳴動は停電や瞬断などによりAC電源の供給が遮断され、システムの再起動が行われたことを通知するものです。異常ではありません。

仮想LCD上のエラーメッセージ

EXPRESSSCOPEエンジン（BMC）Webブラウザ画面上で、仮想LCDのエラーメッセージを確認できます。上段と下段それぞれのエラーメッセージの一覧と障害内容、その対処方法を示します。

仮想LCDについては、EXPRESSSCOPEエンジンユーザズガイドを参照してください。



● LCD上段表示メッセージ

LCD 上段表示 BIOS メッセージ	障害内容	対処方法
XX BIOS Rev XXXX	POST 実行中の表示です	POST が完了するまでお待ちください。
Prepare To Boot	POST が完了すると表示されます。正常に動作しています。	Boot が完了するまでお待ちください。
Mem Reconfigured	メモリが縮退した状態で動作しています。	保守サービス会社に連絡してください。
Mem Err Disable	メモリ訂正可能エラーが多発しています。	
CPU Reconfigured	CPU が縮退した状態で動作しています。	
Memory C-Err XX	メモリの回復可能エラーが発生しています。	
Memory U-Err XX	メモリの回復不能エラーが発生しました。	
PCI Bus SERR XX	PCI バスの SERR が発生しました。	
PCI Bus PERR XX	PCI バスの PERR が発生しました。	
Chipset Err XXXX	Chipset のエラーが発生しました。	

● LCD下段表示メッセージ

LCD 下段表示 BMC メッセージ	障害内容	対処方法
Proc1 VccpAlm XX	電圧異常を検出。 XX が 09 の場合上限異常を示す。 XX が 02 の場合下限異常を示す。 XX が 07 の場合上限警告を示す。 XX が 00 の場合下限警告を示す。	保守サービス会社に連絡してください。
BB P_Vtt Alm XX		
BB +1.5v Alm XX		
BB +1.8v Alm XX		
BB +3.3v Alm XX		
BB +5.0v Alm XX		
BB +12v Alm XX		
VBAT Alm XX		
BB Temp2 Alm 00	装置内の温度異常（低温）を検出した。	ファンの故障またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
BB Temp2 Alm 02	装置内の温度警告（低温）を検出した。	
BB Temp2 Alm 07	装置内の温度異常（高温）を検出した。	
BB Temp2 Alm 09	装置内の温度警告（高温）を検出した。	
CPU1 Temp Alm 00	CPU の内部温度異常（低温）を検出した。	
CPU1 Temp Alm 02	CPU の内部温度警告（低温）を検出した。	
CPU1 Temp Alm 07	CPU の内部温度異常（高温）を検出した。	
CPU1 Temp Alm 09	CPU の内部温度警告（高温）を検出した。	
DUMP Request !	ダンプボタンが押された。	
OS shutdown Alm	OS の STOP エラーが発生した。	画面に表示されたメッセージを記録し、メモリダンプが採取し終わるまでお待ちになった後、保守サービス会社に連絡し保守を依頼してください。
Power On Cnt Alm	電源異常が発生した。	保守サービス会社に連絡し保守を依頼してください。
240VA Power Down		
Power Unit 1 Alm	電源ユニット 1 の異常が発生した。	電源コードが接続されているか確認し、それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
Proc Missing	CPU が実装されていない。	保守サービス会社に連絡し、CPU またはマザーボードを交換してください。
Proc T-Trip	CPU1 の温度異常により強制電源 OFF を行った。	保守サービス会社に連絡してください。
Processor IERR	CPU1 の内部エラー (IERR) が発生した。	
SMI timeout	システム管理割り込み処理中にタイムアウトが発生した。	
WDT timeout	ウォッチドックタイマタイムアウトが発生した。	
Sys Fan 1 Alarm	ファンアラームを検出した。	ファンの故障またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
Sys Fan 2 Alarm		
Sys Fan 3 Alarm		

トラブルシューティング

思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本体について（導入時の問題）

【?】電源がONにならない

- ☐ 電源が本体に正しく供給されていますか？
 - 電源コードが本体の電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。
 - 本体に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
 - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
 - UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
また、BIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
- ☐ POWERスイッチを押しましたか？
 - 本体前面にあるPOWERスイッチを押して電源をON（POWERランプ点灯）にしてください。

【?】POSTが終らない・ビープ音が鳴る

- ☐ DIMMが確実に実装されていますか？
 - DIMMが正しく取り付けられていることを確認してください。「DIMM」（110ページ）を参照してください。
- ☐ メモリを搭載していますか？
 - 最低1枚のDIMMが搭載されていないと動作しません。

【?】電源コードを接続すると、POWERランプが点灯する。

- AC電源が供給された直後は、POWERランプが点灯しますが故障ではありません。
一度、POWERスイッチをON/OFFすると消灯します。

【?】初期設定ツールで本装置の自動発見ができない

- LANケーブルが接続されていない可能性があります。本体標準装備のLANポートにLANケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- サーバが正常に起動していない可能性があります。コンピュータ名の重複やIPアドレス/サブネットマスクの設定に誤りがないか確認してください。同一ネットワーク上の複数の本装置を再インストールした場合、複数台同時に起動すると2台目以降は正常に起動できません。1台ずつ起動して初期設定を行い、初期設定完了後に次の1台を起動してください。
- ネットワーク負荷が高い可能性があります。自動発見オプションの設定でオプションの値を変更してください。

【?】初期設定ツールで設定変更が開始できない

- 本装置の一覧で初期設定サービスが停止となっている場合、初期設定ツールによる設定変更はできません。リモートデスクトップにて設定変更を行ってください。

【?】初期設定ツールで設定変更ができない

- コンピュータ名やIPアドレスを誤って設定した可能性があります。同一ネットワーク上にコンピュータ名やIPアドレスが同じマシンが存在しないか確認してください。もしコンピュータ名やIPアドレスを重複して設定してしまった場合は、重複したマシンをいったんネットワークから切り離して、本装置を再起動し、初期設定ツールで設定変更してください。
- 複数のLANポートにケーブルが接続されている可能性があります。複数のLANポートを使用する場合は、まず本体標準装備のLANポートのみにケーブルを接続して初期設定を行い、初期設定完了後に残りのコネクタにケーブルを接続してください。

【?】初期設定ツールでリモートデスクトップの起動ができない

- iStorage NSサーバの一覧でリモートデスクトップ起動が可となっているサーバに対してリモートデスクトップ接続が出来ない場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。本装置および、初期設定ツールを動作させているWindowsマシンのネットワークの設定を確認してください。
- iStorage NSサーバの一覧でリモートデスクトップ起動が不可となっている場合、リモートデスクトップ接続はできません。初期設定サービスが起動中の場合は、初期設定ツールで正しく設定変更を行ってください。初期設定サービスが停止の場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。初期設定ツールを動作させているWindowsマシンのネットワークの設定を確認してください。

【?】 初期設定ツールでリモートデスクトップ起動が不可と表示される

- 初期設定が完了していない場合は、リモートデスクトップ起動が不可となります(DHCPサーバからアドレスを取得できない場合)。初期設定ツールで初期設定を行ってください。
- 初期設定が完了した iStorage NSサーバ についてリモートデスクトップ起動が不可となる場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。本装置および、初期設定ツールを動作させているWindowsマシンが同一ネットワークに属しているか確認してください。
- リモートデスクトップ起動の確認に時間がかかり、不可となってしまう場合があります。もう一度自動発見を行って可とならないか確認してください。なお、iStorage NSサーバの一覧でリモートデスクトップ起動が不可となっている場合、リモートデスクトップ接続はできません。

本体について（運用時の問題）

【?】 起動できない

- 本装置の環境（ネットワークケーブルの接続など）を確認してください。
- DVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER（SE）」CD-ROMをセットしている場合は、CD-ROMから起動しています。CD-ROMを取り出して再起動してください。

【?】 本体の電源が自動的にOFFになった

- 装置の温度が高くなりすぎた可能性があります。通気が妨げられていないか確認し、装置の温度が下がってから再起動してください。それでも電源がOFFになる場合は、保守員に連絡してください。

【?】 ブルー画面（STOPエラー画面）で電源OFFできない

- ☐ 一度押しでは電源OFFはできません。
- ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF（電源スイッチを4秒以上押し続ける）を行ってください。



プロセッサが異常高温になると、高価な部品を保護するための回路が作動します。この場合、システムはリセット状態となるため、POWERスイッチによる電源制御ができなくなります。電源コードを抜いて、電源をOFFにし、運用環境（周囲温度など）を確認した後、しばらくしてから再度、電源コードを接続し、電源をONする必要があります。なお、プロセッサが冷却されるまでの間（通常であれば5分程度）は、電源をOFFの状態にしておく必要がある場合もあります。

【?】 Webが遅い

- ネットワーク上に負荷がかかって、通信が非常に遅くなっている可能性があります。ESMPRO/ServerAgentのネットワーク監視でネットワークの状況を確認してください。

【?】 UNIXクライアントからの接続が正常にできない

- UNIXクライアント接続用のサーバ名が正しく設定されていない可能性があります。「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROM内のオンラインドキュメント「管理者ガイド」(または<http://www.express.nec.co.jp/care/user/adminguide.html>)を参照して設定を確認してください。

【?】 運用中、システムイベントログに次のようなエラーが記録される

イベントID:17

ソース:W32Time

種類:エラー

説明: タイム プロバイダ NtpClient: 手動で構成されたピア 'time.windows.com,0x1'のDNS 参照中に予期しないエラーが発生しました。30分後に再試行します。

エラー: 到達できないホストに対してソケット操作を実行しようとしてしました。(0x80072751)

- タイムサーバーが正しく設定されていない場合に、上記のようなイベントログが記録されますが、運用上問題はありません。
コンピュータの時計の同期をとりたい場合は、[スタート]–[コントロールパネル]–[日付と時刻]をクリックし、[インターネット時刻]タブを選択し、タイムサーバーの設定を行ってください。

【?】 運用中、システムイベントログに次のようなエラーが記録される

イベントID:7026

ソース:Service Control Manager

種類:エラー

説明: 次のブート開始ドライバまたはシステム開始ドライバを読み込むことができませんでした: i8042prt

- キーボードが接続されていないと、上記のようなイベントログが記録される場合がありますが、運用上問題はありません。

【?】運用中、システムイベントログに次のような警告が記録される

イベントID:32

ソース:AppleTalk

種類：警告

イベントID：1102

説明：アダプタ "Intel(R) PRO/100 M Network Connection" の AppleTalk の初期化中に取得されたノード ID は別のデバイスに割り当てられました。現在のノード ID は解放されて、新しいノード ID がシード範囲のシード ルーターより取得されました。

- ネットワークに接続されていない場合に、上記のようなイベントログが記録されることがありますが、運用上問題はありません。

【?】OSが起動しない

- ☐ ディスプレイ接続時に、起動時のメッセージで「WARNING!!!Configuration Change(s) Detected!!!!」が表示される場合があります。
- RAIDで設定されたRAIDドライブの接続を確認してください。(113ページ)

EXPRESSBUILDER (SE)について

EXPRESSBUILDER (SE) から起動できない場合は、次の点について確認してください。

【?】「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMから本装置を起動できない

- システムBIOSの起動デバイスが正しく設定されていない可能性があります。正しく設定できているか確認してみてください。
- POSTを実行中に「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

[?] EXPRESSBUILDER (SE) の実行中にエラーメッセージが表示された

- EXPRESSBUILDER (SE) の実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER (SE) の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAM へのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ (NvRAM) にアクセスできません。
ハードディスクドライブへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクドライブが接続されていないか、ハードディスクドライブが異常です。ハードディスクドライブが正常に接続されていることを確認してください。

マスターコントロールメニューについて**[?] オンラインドキュメントが読めない**

- ☐ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？
- オンラインドキュメントの一部は、PDFファイル形式で提供しております。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。

[?] マスターコントロールメニューが表示されない

- ☐ ご使用のシステムは、Windows 2000、Windows XP、または Windows Server 2003 ですか？
- CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。
- ☐ <Shift>キーを押していませんか？
- <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットしますと、Autorun機能がキャンセルされます。
- ☐ システムの状態は問題ありませんか？
- システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラなどから実行してください。

[?] メニュー項目がグレイアウトされている

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
- 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

システム診断・オフライン保守ユーティリティについて

システム診断やオフライン保守ユーティリティの実行中にエラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は、速やかに保守サービス会社までエラーやメッセージの内容を連絡し、保守を依頼してください。

その他のアプリケーションについて

EXPRESSBUILDER (SE)に各種オンラインドキュメントが収録されています。オンラインドキュメントを参照してください。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアの再インストールは以下の手順で行います。

- 再インストールのための準備
- 「iStorage NS 150hバックアップDVD-ROM」を用いたインストール
- iStorage NSの起動
- 確認と設定

再インストールのための準備

再インストールには以下の媒体等が必要になりますので、あらかじめご用意願います。

- ー 装置添付の「iStorage NS 150h バックアップDVD-ROM」
- ー 装置添付のスタートアップガイド
- ー ディスプレイ、キーボード
- ー 装置添付の「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROM（必要に応じて）
- ー 外付けDVD-ROMドライブ
- ー 外付けFDドライブ（FDを使用してDianaScopeのコンフィグレーションを行う場合）

<注意>

- 再インストールを行う際に、アレイ構成を変更したり、ベーシックディスクへ戻したりすると、ハードディスクドライブ上のデータはすべて削除されます。また、誤った手順を実行すると、ハードディスクドライブ上のデータがすべて削除される危険性がありますので、再インストール作業の前に、必ず必要なデータを外付けバックアップ装置などにバックアップしてください。
システム復旧のためのバックアップの方法に関しては、管理者ガイドが掲載されたホームページ上で共に公開するシステム復旧手順書とBackupExec、またはNetBackupの説明書類を参照してください。
- 同じネットワーク内で複数のiStorage NSを再インストールする必要がある場合でも1台ずつ行ってください。
- 本装置のiStorage NSソフトウェアの再インストールは、DianaScopeを使用してリモートから行うか、または本装置にディスプレイとキーボードを接続して行うこともできます。DianaScopeをご使用になる場合、あらかじめiStorage NSと管理PCに設定が必要です。DianaScopeの使用法については「EXPRESSBUIDLER(SE)」CD-ROM内のオンラインドキュメントを参照してください。
ただし、Array Configuration Utilityを使用してアレイ構成をRAID0に変更する場合は、本装置にディスプレイとキーボードを接続して行ってください。
- 再インストール時には必ずLANケーブルを接続してください。使用できるポートに関しては、本装置に添付のスタートアップガイドを参照してください。
- 本装置には標準でDVD-ROMドライブが搭載されておりません。再インストール作業を開始する前に本装置に外付けDVD-ROMドライブを接続してください。

<出荷時の構成について>

本装置はマザーボード上にディスクアレイコントローラを搭載しており、出荷時には2台のハードディスクでRAID1のアレイ構成になっています。

本装置の場合、再インストール時のディスクの状態によって以下の5つの方法があります。

アレイ構成を変更せずに再インストールを行う場合

- システムドライブをベーシックディスクで使用する場合
- システムドライブをダイナミックディスクへアップグレードしている場合

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合

- アレイ構成を出荷時状態（RAID1）に戻す場合
- アレイ構成をRAID0に変更する場合

ハードディスクドライブを交換した場合

- ハードディスクドライブを交換した場合

以降、それぞれについて説明します。

アレイ構成を変更せずに再インストールを行う場合

アレイ構成を変更せずに再インストールを行う場合の手順について説明します。

- システムドライブをベーシックディスクで使用している場合
システムドライブをベーシックディスクで使用している場合は、「iStorage NS150h バックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進んでください。
- システムドライブをダイナミックディスクへアップグレードしている場合
システムドライブをダイナミックディスクへアップグレードしている場合は、OSの再インストール前に、「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMに含まれるFDISKユーティリティでダイナミックディスクにアップグレードしたディスクのすべてのパーティションを削除します。このため、必要なデータは必ず再インストール前に外付けバックアップ装置などにバックアップを行ってください。
 1. 本装置の電源をONにし、「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMをセットする。
 2. 「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMのトップメニューが表示されたら、[終了]を選択し、<Enter>キーを押す。
 3. 終了メッセージが表示されたら、<Enter>キーを押してDOS画面を起動する。
 4. Q:¥>の後にfdiskと入力して<Enter>キーを押す。
 5. 「Do you wish to enable large disk support? [Y]:」と表示されるので、<Y>キーまたは<N>キーを押す。
FDISKメニューが表示されます。
 6. <A>キーを押し、[A) Delete all partitions]を選択する。

7. ディスクの情報と、「Are you sure you want to delete? [N] 」とメッセージが表示されたら、<Y>キーを押す。
パーティションがすべて削除されます。削除されたら「Partition (s) deleted」と表示されます。
8. <Esc>キーを押してメニューに戻る。
9. <V>キーを押して[View partition (s)]を選択する。
「No partitions」と表示されていれば削除は正常に行われています。
10. ダイナミックディスクのパーティションをすべて削除したら、<Esc>キーでメニューに戻り、<S>キーを押す。
11. 「Changes saved. Press any key to reboot…」と表示されたら、何かキーを押して再起動する。
再起動後、「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMのトップメニューが表示されます。
12. [終了]を選択して<Enter>キーを押す。
13. 終了メッセージが表示されたら「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMを取り出し、本体の電源をOFFにする。
14. 「iStorage NS150hバックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進む。

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合

アレイ構成を変更して再インストールを行う場合について説明します。いずれの場合も、再インストールを行うとデータは全て削除されます。作業を開始する前に必ず必要なデータを外付けバックアップ装置などにバックアップしてください。

● アレイ構成を出荷時状態 (RAID1) に戻す場合

アレイ構成を出荷時状態に戻すには、「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMに格納されている「ディスクアレイコンフィグレーション」を使用します。「ディスクアレイコンフィグレーション」を使用してアレイを構築した後、「iStorage NS150hバックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進んでください。

1. 本装置の電源をONにし、添付の「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMをセットする。
2. トップメニューが表示されたら、[ツール]を選択して<Enter>キーを押す。
3. [ディスクアレイコンフィグレーション]を選択して<Enter>キーを押す。
画面の指示に従い、アレイを構築してください。
4. アレイ構築が終了したら、トップメニューに戻り、[終了]を選択して<Enter>キーを押す。
5. 終了メッセージが表示されたら、「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMを取り出し、本装置の電源をOFFにする。
6. 「iStorage NS150hバックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進む。

- **アレイ構成をRAID0に変更する場合**

アレイ構成をRAID0に変更する場合は、本装置にディスプレイとキーボードを接続し、Array Configuration Utilityを使用してアレイ構成を行います。その後、装置添付の「iStorage NS150hバックアップDVD-ROM」を使用してiStorage NSのソフトウェアをインストールします。Array Configuration Utilityの操作に関しては、5章の「RAIDコンフィグレーション」を参照してください。

1. 本装置の電源をOFFにし、ディスプレイとキーボードを接続する。
2. 本装置の電源をONにし、POST中に「Press <Ctrl><A> for Adaptec RAID Configuration Utility」と表示されたら<Ctrl>キーと<A>キーを押す。
Array Configuration Utilityが起動します。
3. 5章の「RAIDコンフィグレーション」を参照して、アレイを構築する。
4. アレイの作成が終了したら、Array Configuration Utilityを終了する。
5. 本装置の電源をOFFにする。
6. 「iStorage NS150hバックアップDVD-ROMを用いたインストール」の節に進む。

ハードディスクドライブを交換した場合

出荷時状態（RAID1）にする場合は「アレイ構成を出荷時状態（RAID1）に戻す場合」を、RAID0で使用する場合は「アレイ構成をRAID0に変更する場合」を参照してアレイを構築し、その後、装置に添付の「iStorage NS150hバックアップDVD-ROM」を使用してiStorage NSソフトウェアをインストールしてください。

「iStorageNS150hバックアップDVD-ROM」を用いたインストール

iStorageNS ソフトウェアの再インストールには、添付の「iStorage NS150hバックアップDVD-ROM」を使います。以下の手順に従い、BIOSのブートデバイスの順位を確認した後、ソフトウェアの再インストールを行ってください。

1. 本装置の電源をONにし、DVD-ROMドライブに「iStorage NS150hバックアップDVD-ROM」をセットする。
2. POST中、画面左下に以下のメッセージが表示されたら、F2キーを押してシステムBIOS SETUPユーティリティを起動する。

Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to boot from Network

3. 2章の「BIOS設定の注意点」を参照してブートデバイスの順位を確認し、異なる場合は変更してシステムBIOS SETUPユーティリティを終了する。

フロッピーディスクをセットしている場合は、フロッピーディスクドライブから取り出してください。

DVD-ROMから自動起動して、iStorageNSソフトウェアが本装置にインストールされます。インストールを正常に終了すると断続的なパターンでピープ音が鳴ります。異常終了した時は連続的にピープ音が鳴ります。

4. DVD-ROMドライブから「iStorage NS150hバックアップDVD-ROM」を取り出す。
5. 本装置の電源をOFFにし、ディスプレイ、キーボード、外付けDVD-ROMドライブが接続されている場合は取り外す。



チェック

POWER ランプが消灯したことを確認してください。2～3分経過してもPOWERランプが消灯しない場合は、強制電源OFF（POWERスイッチを4秒ほど押し続ける）をしてください（強制電源OFFについては1章の「強制電源OFF」を参照してください）。

6. 「iStorage NSの起動」の節に進む。



再インストールが異常終了すると、連続的なピープ音が鳴ります。その場合、装置添付のDVD-ROMでない可能性があります。DVD-ROMが添付のものでもない場合は、正しいDVD-ROMをセットして本体の電源をOFFにした後、再度ONにしてください。正しいDVD-ROMがセットされていた場合は、再インストール手順を再確認してください。

iStorage NSの起動

本装置の電源ON後、初期設定ツールを使用してコンピュータ名、IPアドレスなどを設定してください。初期設定ツールの操作に関しては第2章を参照してください。

これで再インストールは終了です。「確認と設定」に進んでください。

確認と設定

次に説明する確認と設定をしてください。

本装置へのログオン

管理PCよりリモートデスクトップを起動し、iStorage NSに接続します。

管理者権限を持ったユーザー名とパスワードを用いて本装置へリモートログオンします。

管理者のユーザー名とパスワードはあらかじめ設定されています。装置添付のスタートアップガイドを参照してください。

仮想メモリの確認

システムのプロパティから仮想メモリの値を変更します。以下の手順で行います。

1. [スタート]→[コントロールパネル]→[システム]をクリックする。
2. [詳細設定] タブをクリックし、[パフォーマンス]の[設定]をクリックする。
3. [詳細設定]タブをクリックし、[仮想メモリ]の[変更]をクリックする。
4. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」で[初期サイズ]に搭載メモリの1.5倍、[最大サイズ]に搭載メモリの3倍の値を設定して[設定]をクリックする。
[初期サイズ]、[最大サイズ]に設定できる値は「4096」までです。搭載メモリの1.5倍、3倍の値が「4096」を超える場合は「4096」を設定します。
5. [OK]をクリックして、すべてのウィンドウを閉じる。
6. リモートデスクトップをログオフし、iStorage NSを再起動する。

ディスク管理での確認 - ドライブレターの変更

管理PCよりリモートデスクトップを使用してiStorage NSに接続し、Windows Storage Server Management画面でディスクの管理を表示します。必要に応じてドライブレターを変更します。以下の図はアレイ構成をRAID1に設定した場合の図です。



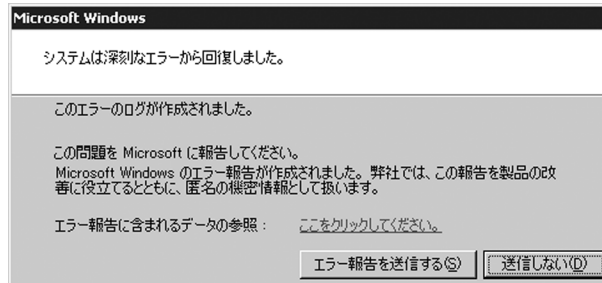
以上で再インストール手順は終了です。

再インストール時に増設したダイナミックディスクのパーティションを削除された場合は、必要に応じてパーティションを作成してください。

最後に必要であれば、バックアップしたデータをリストアします。リストアの手順は、管理者ガイドが掲載されたホームページ上で公開するシステム復旧手順書とBackupExecまたはNetBackupの説明書類を参照してください。

注意事項

- 再インストール後、以下のようなウィンドウが起動直後に数回表示されることがあります。その場合は、「送信しない」をクリックしてください。



また、このメッセージが表示された場合、イベントビューアのシステムに以下のエラーログが数回登録されます。このエラーが発生した時刻付近でイベントID6006「イベント ログ サービスが停止されました。」が登録されていれば、特に問題ありません。

ソース System Error

イベントID 1003


種類 エラー


この現象について、マイクロソフトのサポート技術情報に掲載されています。以下のWebページにて確認してください（2006年10月11日現在）。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;828144&Product=winsvr2003>

移動と保管


本体を移動・保管するときは次の手順に従ってください。


 **警告**



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリーを取り外さない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

 **注意**



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 中途半端に取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意



重要

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクドライブを内蔵している場合はハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して本体を移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本体を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。
装置を保管する場合は、保管環境条件（温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%）を守って保管してください（ただし、結露しないこと）。

1. フロッピーディスク、CD-ROMをセットしている場合は取り出す。
2. 本体の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
3. 本体に接続している電源コードをコンセントから抜く。
4. 本体に接続しているケーブルをすべて取り外す。

5. 本体に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。



輸送後や保管後、装置を再び運用する場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。

システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。本装置および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因となります。装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

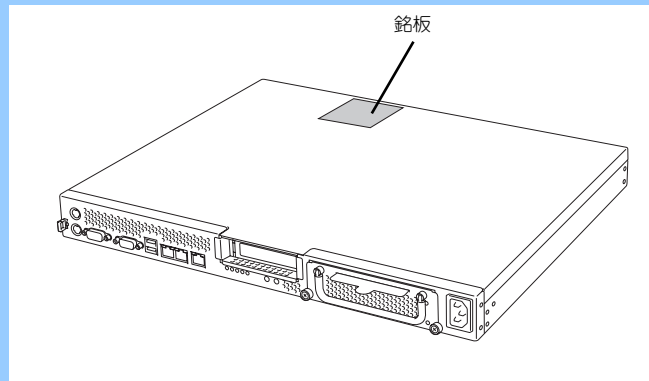
保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。



- NEC製以外（サードパーティ）の製品、またはNECが認定していない装置やインターフェースケーブルを使用したために起きた装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本体に、製品の形式、SERIAL No.（号機番号）、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の号機番号と保証書の保証番号が一致していませんと、保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。



修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

1. 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
2. 「障害時の対処」（161ページ）を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
3. 本装置を操作するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどで装置をチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際に装置のランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録の「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。

なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。



この装置は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ 障害情報または障害が起きたときの状況メモ
- ☐ 本体の記録

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスは弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。

なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばさせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

NECでは、お客様に合わせてさまざまな契約保守サービスを用意しております。サービスの詳細については、「<http://www.express.nec.co.jp/care/index.html>」に記載のサポート情報をご覧ください。



- サービスを受けるためには事前の契約が必要です。
- サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。

情報サービスについて

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいがないよう、番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 03-3455-5800 (代表)

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

本装置および他のiStorageシリーズ製品や関連製品に関する情報をインターネットでも提供しています。

<http://www.express.nec.co.jp/products/istorage.html>

『iStorage製品』：製品情報、Q&Aなど最新情報が満載です！

<http://www.fielding.co.jp/>

NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。

